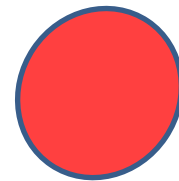
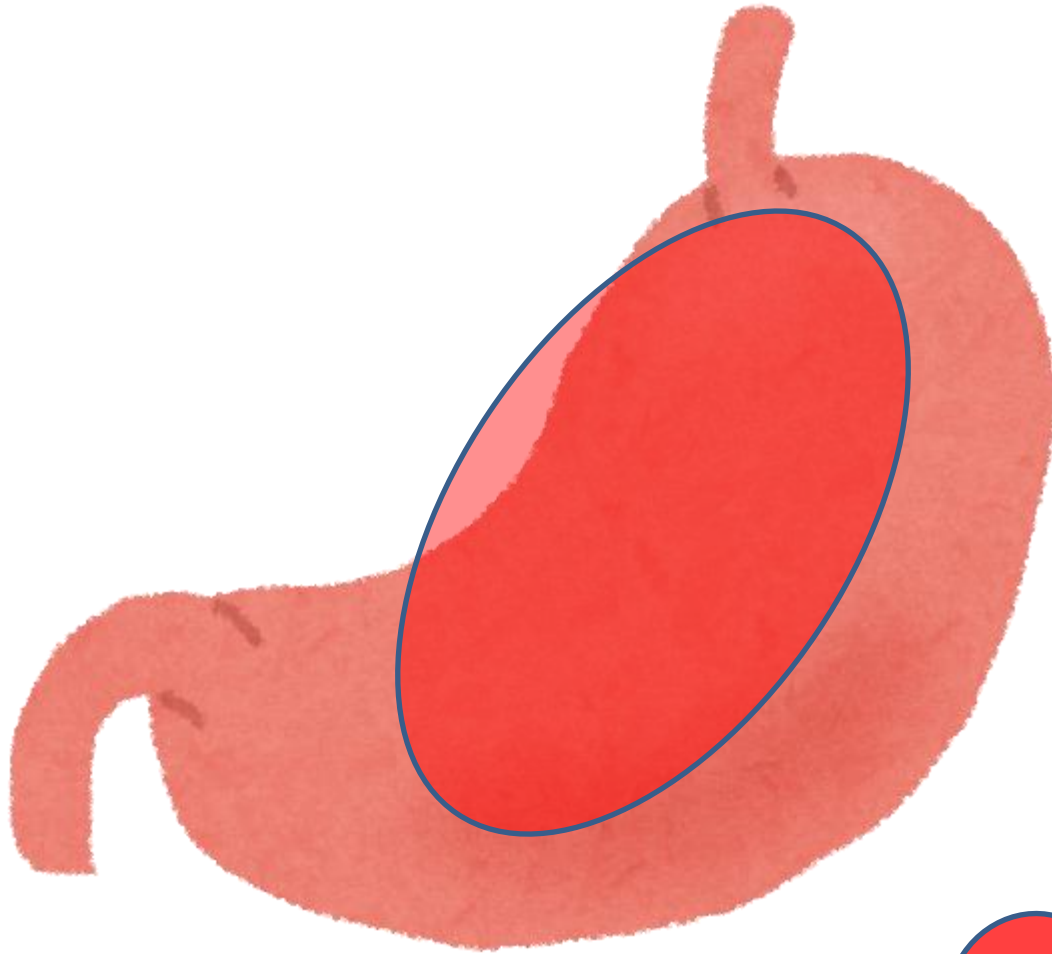


表層拡大型胃がん

胃の表面に広範囲に広がっている早期胃がんでした。消化管がんの悪性度は基本的に大きさではなくがんの根の深さで決まるため、浅い病変はどんなに大きくても内視鏡で切除することができます。精密な内視鏡検査でがんの拡がりを特定し内視鏡治療で根治でき、胃の全摘手術を回避する事ができました。

部位	穹窿部～胃角部/小彎を中心とした前壁～後壁病変
腫瘍径	106 x 98mm
治療時間	447分
病理	高分化型腺がん 粘膜内がん
治療経過	3年経過後 再発なし

图 1



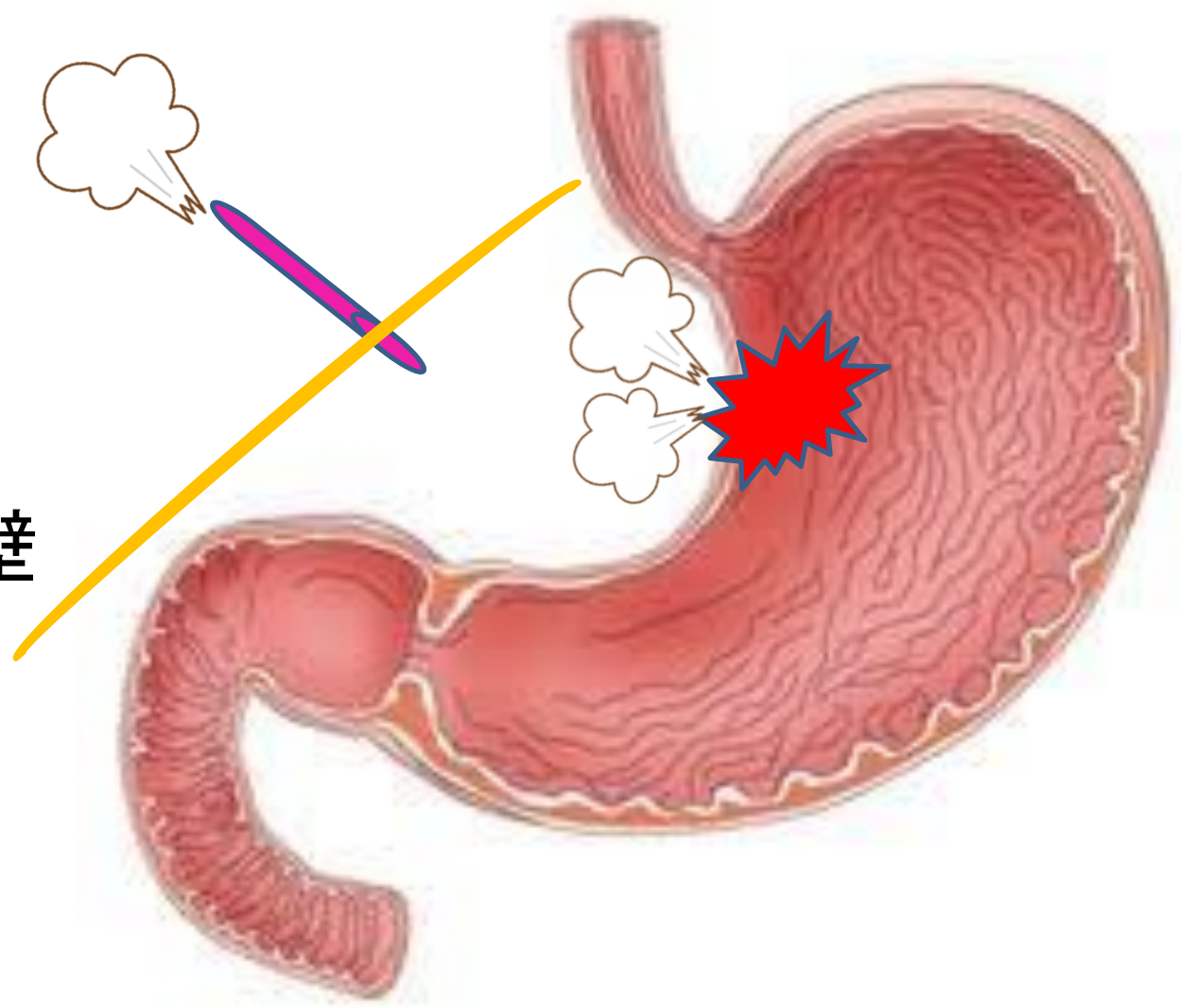
切除範圍

胃穿孔症例

病変が硬く内視鏡治療が非常に難しい場所にある病変で、治療途中で胃に孔があいてしまい、なんとか内視鏡で傷口を修復しようとしたのですが完全に塞ぐことができませんでした。心肺機能が悪く胃の外科的手術が不可能な方で、内視鏡治療が唯一のがんの治療であったため、お腹の中にもれたガスを細いストローのような管でお腹の壁の外に逃がしながら治療を継続し完遂することができました。

部位	胃体上部～中部/後壁
腫瘍径	40x25mm
治療時間	157分
病理	高分化型腺がん 粘膜下層軽度浸潤がん
入院期間	7日間（術後経過良好）
治療経過	1年6か月後再発なし

腹壁



胃粘膜下腫瘍

胃粘膜下腫瘍とは胃の表面粘膜より深い粘膜下層にできる病変です。術前の検査で良性の所見でしたが3cmもの大きな病変でもあり、ご本人と相談の上もっとも体に負担の少ない内視鏡による切除を行う方針となりました。治療が難しい部位にありましたが腫瘍は内視鏡できれいに取り除くことができ、最終病理結果で良性であることを確定診断をすることができました。

部位	胃体中下部大彎	胃粘膜下腫瘍
腫瘍径	27x22mm	
切除時間	98分	
病理	gastric cystica profunda	

